



★27★

渡辺 大直

私の家庭菜園は草がよく伸びる。手入れをしているつもり野菜はなかなか成長してくれないが、雑草は手入れもしないのに、勝手にどんどん増えて、大きくなる。結果、私の畑仕事の大部分は草取りに費やされてしまう。

草丈が長い草は、握ってむしり取ったり、鎌で刈り取ったりするが、野菜が植わっている畝の草は、草丈が短いこともあって、指でつまんで抜く。こんな作業をしていると、何故か牛と山羊の草の食べ方を思い浮かべてしまう。

牛は長い舌で草を口に巻き込んで食べる。牛の前歯は下顎にしか生えていなくて、しかも前に向かって生えてい

る。その前歯を鎌のように使って、草を刈り取る。ところが山羊はせわしく口を動かして、唇で草をつまむようにし

て食べる。山羊も前歯は下顎にしかないが、上顎をまな板にして、前歯を包丁のように使う。

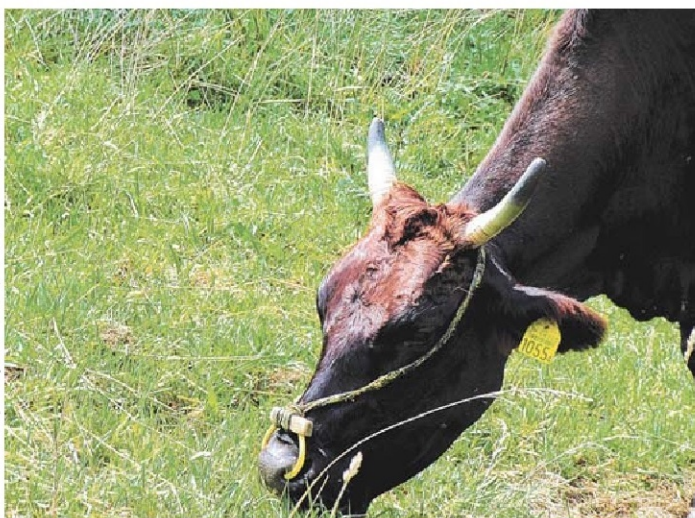
草丈が長い草は手を牛の舌みたいに使っているの。牛作業、短い草を摘み取るのは山羊の唇のように指を使うから「山羊作業」だなアなどと思いながら草取りをする。

牛も山羊も新石器時代の西アジアで家畜化され、世界に広がったとされるが、草が豊かな草原に暮らし、草丈の長い草を食べていた牛の祖先と、山岳地帯や砂漠に近い乾燥地に住み、わずかに生えている短い草を巧みに利用していた山羊の祖先の痕跡がここに残っているようだ。

こんな話を家族にすると、「お父さんは何でも牛に結び付けてしまっ」と言われるのが分かっていて、絶対にしない。しかし牛と山羊の食べ方のちがといった話題は、友人とのちょっとした雑談の小ネタになりそうな気がする。

ちょうど今、牧場公園ではゲレンデに牛を放牧していて、動物ふれあい広場には山羊や羊を放し飼っている。秋の一日、そんな見方で牛や山羊を眺めてみるのはいかがだろうか？

のんびりと草を食べる但馬牛



山羊はせわしく口を動かし、唇で草をつまむようにして食べる



牛と山羊の草の食べ方

■筆者プロフィール■
わたなべ・ひろなお
1954年、新温泉町浜坂出身。県職員として畜産行政に長年携わってきた。県立但馬牧場公園「但馬牛博物館」館長。